

亡き人はどこへゆかれたのでしょうか。
私はどこへゆくのでしょうか。

イ) 草葉の陰
お墓の下。じっと縁者を見守る。

ロ) 冥土
地獄・餓鬼・畜生の三悪道という暗黒の世界。生きている者からそこでの幸福（冥福）を祈られる。

ハ) 天国
神さまの国。敬虔なる信仰心と罪を犯さない無垢の人生をもって、はじめて天国へ行ける。

ニ) 浄土
仏さまの国。迷いを離れた清浄な世界。生まれたものは仏となり、再び迷いの世界（娑婆）に還り人々を救う。

ホ) その他



山口
教区

亡き方はどこへ行かれたのでしよう。

まもなく「お盆」。故郷を離れ都会や遠方で暮している人たちも、この季節になると生れ育った故郷へ帰省し、お寺やお墓に参って亡き方々を偲びます。またお盆は仏さまのお心に気づかせていただく大切な仏事でもあります。

亡き方はどこへ行かれたのでしようか。草葉の陰、冥土、天国、浄土、それとも・・・少し思いをさせてみてください。そしてそのことを通して、私はどこへ行くのか、死んだらおしまいなのかどうか、また今の自分のありようを顧みる機会として、お盆を過ごしてみましよう

「どこへ行く？そんなことどうでもいいじゃないか。今さえよければ。」
本当にそうでしょうか。

今さえよければいい、自分さえよければいいという生き方は、独りよがりな、わがまま勝手な生き方になっていないでしょうか。他者とのつながりを



彼岸花（ヒガンバナ）と
紋黄揚羽（モンキアゲハ）

忘れ、他者の痛みを目を閉ざし傷つけ、自らをも傷つけている生き方になっていないでしょうか。

目先の楽しさで人生の現実を覆い隠し、先を見ようとしないう生き方になっていないかどうか、振り返ってみることも大切です。

「目的あればこそ航海、なければ漂流。」

私は今どこにいるのか。

マラソンはゴールを目指してこそマラソンです。ゴールもない、方向も定まらないマラソンは苦痛、徒労以外の何ものでもありません。

また行き先のない人生は、大海原に放り出されて帰る港もわからず漂流している舟のようなものです。現在地もわからずただ不安の中で漂っているのです。いくら目先の楽しみでごまかしても、ごまかしきれない不安を抱えたまま、むなしく終わってゆかざるを得ません。行き先を問うということは、今の私の生き方、現在地を問うということなのです。



羽黒蜻蛉（ハグロトンボ）

行き先がわかったとき、私の生き方が変わります。

行き先が定めれば、自ずと人生の全体を考え、今の自分の立ち位置も見えてきます。浄土が私の行き先として確かに定まったとき、そこから浄土への歩みが始まります。

目先のことにとらわれて他を顧みなかった私、他を傷つけていた自分であったと、今の自分のありようにも気づかされることとでしょう。

本当の自分に気づかされて「ごめんさい」と、私に生きて行く方向が与えられて「ありがとう」と、阿弥陀さまのはたらきのなかで生きてゆくことになるのです。私の生き方が変わり、今の私が輝いてゆきます。

亡き人を偲ぶとは、亡き方へ行かれた世界を聞いたずね、自分自身のいのちの行く先を聞いてゆく大切なご縁なのです。私はどこへ行くのか、お盆のこの時期、謙虚に聞かせていただきたいものです。



睡蓮（スイレン）とオンプバッタ

